

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金  
大学院生研究 2015年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	コミュニティ福祉学研究科	スポーツウエル ネス専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	コミュニティ福祉学部・教授	濁川孝志	
研究課題名	自然体験が人のスピリチュアルな価値観形成に及ぼす影響		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	コミュニティ福祉学研究科・ スポーツウエルネス専攻・2年	奇二正彦	
研究期間	2015年度		
研究経費	100千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、自然体験が人のスピリチュアリティの醸成に関係しているという仮説の下、野球、サッカーなどのスポーツをしている群と、登山やキャンプなど野外体験をしている群で量的研究(アンケート)を行い、それぞれのスピリチュアル度に相違があるかどうか研究する。また、質的研究としてライフヒストリーにおける自然体験が、その人のスピリチュアルな価値観にどのような影響を及ぼしているか検討するためインタビューを行う。具体的には、実際にスピリチュアルな価値観を体現している人にインタビューを実施し、ライフヒストリーを洗い出し、自然体験がスピリチュアルな行動にどのように影響を及ぼしているかという点に関し分析することを目的とする。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 自然体験 } {スピリチュアリティ} {トランスパーソナル}

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

(1) 野球、サッカーなどの競技スポーツをしている群(競技スポーツ群)と、登山やキャンプなど自然の中での野外活動をしている群(自然活動群)で量的研究(アンケート)を行い、それぞれのスピリチュアルな傾向に相違があるかどうかの研究。アンケートでは、スピリチュアル傾向を判定する既存の4つの質問紙を使用した。

- ① PIL: The Purpose in life test
- ② JYS: Japanese Youth Spirituality Rating Scale
- ③ STS: self-transcendence scale
- ④ 死生観尺度

現在、野球、サッカーなどの競技スポーツをしている群(競技スポーツ群)が77人。登山やキャンプなど自然の中での野外活動をしている群(自然活動群)が75人、アンケートにご協力いただき、集計が終了した。その結果、自然活動群は競技スポーツ群よりも高いスピリチュアルな傾向を示した。

(2) 過去の自然体験の程度を15項目聞く質問紙「Survey For Nature & Outdoor Experience」を作成し、これにより個人のライフヒストリーにおける自然体験の多寡およびその内容を探った。現在、31人にアンケートにご協力いただき、集計が終了した。

(3) 実際にスピリチュアルな価値観を体現している人のライフヒストリーを洗い出し、自然体験が、そのスピリチュアルな行動にどのように影響を及ぼしているかを分析した。現在、2人にインタビューを実施している。一人は、映画「ガイアシンフォニー」の監督である龍村仁さん。もう一人は東大医学部救急医学分野教授、同大病院救急部・集中治療部長の矢作直樹さん。いずれもテープ起こしを終了した。今後は、テープ起こしをした原稿を元に、ライフヒストリーにおける自然体験の様子を探る。具体的には、KJ法、ならびにその他の健康心理学的手法を用い分析する。なおインタビューは、予備調査をした後にインタビューガイドを作成し、それに基づいて実施した。

(4) (1) (2) (3) の分析を総合して、自然体験が人のスピリチュアルな価値観形成に及ぼす影響について検討中である。

以上

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文 (奇二正彦、現代社会におけるスピリチュアリティの欠如に起因する諸問題と、自然体験による問題解決の可能性、コミュニティ福祉学研究科紀要、第14号、2016年、p95-p101)